

AOSSA 子ども家庭センター・子育て支援室・相談室(平成23年度)

URL <http://www.fukui-kosodate.jp/>

子ども家庭センター・子育て支援室・相談室 副室長 青井利哉

子ども家庭センター・子育て支援室・子育て相談室は、平成19年度に福井市から事業委託を受け、平成23年度までの5カ年を学校法人福井仁愛学園が運営してきた。平成23年度に事業委託期間終了に伴って、平成24年度から平成29年度の5カ年間の受託業者の選定に、福井市はプロポーザル形式による公募を導入した。一次審査、二次審査を経て、学校法人福井仁愛学園に受託者が決定した。平成24年度以降の事業運営については、事業のさらなる発展と、効果評価が求められている。そのため、計画的事業を展開する必要性があり、子育て親子にとって当センターがなくてはならない存在となれるよう、いっそうの努力と研鑽が求められる。今回の報告は、5カ年の当センターの実績と今後の展望について概略する。

1. 子育て支援室5カ年の実績

1) 子育て支援室利用数の推移

表1は、子育て支援室の利用数の推移である。総延べ利用数と世帯数に関しては、統計を取り始めた年度からの記載である。子ども利用数は毎年度7,500人前後で推移し、総数は毎年度14,000人をやや超えながら推移している。

表1. 子育て支援室の利用数の推移

	子どもの延べ利用数(人)	総延べ利用数(人)	世帯数(世帯)
H19年度	5,572	—	—
H20年度	7,850	15,208	—
H21年度	7,510	14,389	1,398
H22年度	7,262	14,252	1,529
H23年度	7,491	14,431	1,464

2) 子育て支援室の子ども利用年齢

表2は、子育て支援室の子ども利用年齢の5カ年度の平均である。当センターは、子どもの利用年齢が、2歳未満で全体の約6割、3歳未満で全体の約8割とい

うことが特徴であった。

表2. 子育て支援室の子ども利用年齢

年齢	平均利用数(人)	割合(%)
1歳未満	1588.3	22.5
1歳～2歳未満	2644.5	37.5
2歳～3歳未満	1543.8	21.9
3歳～4歳未満	720.3	10.2
4歳～5歳未満	316.5	4.5
5歳～6歳未満	172.3	2.4
6歳～就学前	49.5	0.7
未記入	13.5	0.2

3) 子育て支援室の子育て講座開催状況

表3は、子育て支援室が企画した子育て講座の開催状況である。子育て講座は、主に子育てマイスターに依頼しながら、毎年多彩な企画を行っている。結果的に開催回数や参加人数は、年々増加している。

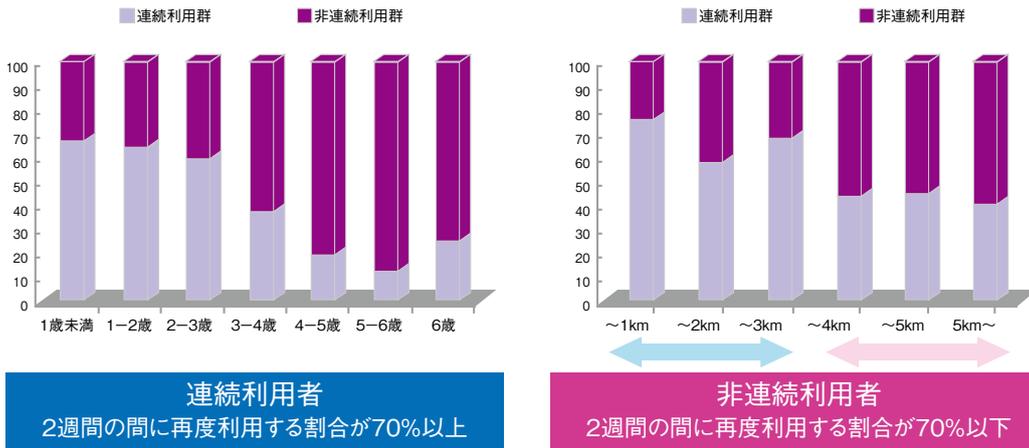
表3. 子育て講座の開催回数と参加人数

	開催回数(回)	参加人数(人)
H20年度	18	516
H21年度	22	795
H22年度	27	1,326
H23年度	37	1,426

2. 子育て支援室5カ年の蓄積のまとめ

- 近隣地域(3キロ未満)の利用者定着と認知度が向上した。0歳から3歳未満が多く利用した。近隣地域在住の3歳未満の子育て家族の交流ができるようになってきた。
- 遠方からは(5キロ以上 特に土曜日曜)父親、両親そろっての利用が多かった(図1)。平日と祝祭日とで行事企画や講座の内容の検討が必要になってきた。
- 子育て支援ボランティアを育成、活用できるようになってきた。地域に子育て支援の輪を広げていけるようになってきた。

図 1. 子育て支援室利用者の傾向（来所頻度、年齢、距離）



- 子育て講座が充実してきた（仁愛学園の講師陣を活用した子育て講座）。子育て親に、より適切な子育てに関する知識や情報を提供できるようになった。
- 小児科医や心理士による相談の充実が図られてきた。気軽な雰囲気の中で、専門的なアドバイスや、子育て不安の解消が行われてきた。

3. 子育て相談室 5 年の実績

1) 子育て相談室利用数の推移

表4は、子育て相談室の相談数の推移である。表中のカッコ内は、専門相談合計における内訳を示した。相談件数は、訪問支援を開始し始めた平成 22 年度より急増した。

2) 子育て親子のためのグループワーク企画

平成 23 年度より、当センター心理職員により、「パパ・ママのグループワーク」と称し、子育て支援室を利用している子育て親子を対象に、毎月グループワークを開催した。子育てで不安解消の目的で開催した。子育てに関するテーマを回ごとに決め、心理士がファシリテーターとなって、子育て親の話を展開した。参加者からは、他の親の身近な悩みなどを共有でき、自分の子育てについて振り返ることができたと好評であった。写真はグループワークの一コマである。

4. 子育て相談室 5 年間の蓄積のまとめ

- 来談者中心に電話相談・面接相談を行い、相談室機能の基盤づくりが行えた。乳幼児期における面接相談

の力が育成された。予約なしでの相談にも専門的に対応でき、気軽に相談できる雰囲気を作れた。

- 心理士による訪問対応・支援を行い、保育所、保健センター等と具体的連携がとれるようになった。
- 子育て支援室を利用している気がかりな子の対応を、子育て相談室職員とともに行えるようになった。子どもや親の気持ちに即した支援が展開され、丁寧かつ専門的な相談が行えた。

5. 今後の展望

5 年間の事業実績の蓄積と課題から、今後の運営にあたり以下のような展開を見出している。子育て支援室は、①子育て親子の孤立化を未然に防止するための取り組み②利用形態が多様な子育て親を「つなげる支援」や「子育てグループの形成」。子育て相談室は、①乳幼児期の相談について専門的役割を担える②要保護事例の背景要因分析やリスク等、アセスメントシートの作成とそれを活用した関係機関との連携。今後も仁愛女子短期大学地域活動実践センターにおける地域支援活動の一助を担えるよう、より一層関係機関と連携を図りながら事業を行っていきたい。



写真 グループワークの様子

表 4. 子育て相談室の相談実績件数

単位(件)

	子ども相談	女性相談	ママダイヤル	小 計	専門相談計	(小児科)	(精神科)	(弁護士)	総合計
H19 年度	203	256	1,164	1,623	42	(2)	(9)	(31)	1,665
H20 年度	262	477	1,443	2,182	185	(72)	(21)	(92)	2,367
H21 年度	705	696	1,264	2,663	198	(79)	(32)	(87)	2,861
H22 年度	898	747	1,828	3,473	173	(87)	(6)	(80)	3,646
H23 年度	985	858	1,010	2,853	159	(84)	(8)	(67)	3,012